令和２年７月２４日現在

国頭地区中体連野球専門部

新型コロナウィルス感染症に関わる大会実施ガイドライン

**【チームでの対策】**

①　手洗いやうがい、咳エチケットの徹底をする

②　登録選手は大会２週間前からの健康チェックシートを記入し保管する。提出を求められた場合は、

対応できるようにしておく。

③　大会当日の体温が37.5℃以上ある場合、または強いだるさなどの体調不良者は帰宅させる。また、途中で体調が悪くなった場合も速やかに帰宅させる。

④　健康状態を確認し、大会本部に参加、不参加の状況を大会本部に報告すること。

⑤　身なり点検は各学校で行い、会場では行わないこと。

⑥　チームで消毒液の準備を行う。また、応援者の消毒液はできるだけ各自で準備すること。

⑦　密集する機会を減らすため、マイクロバス等での送迎を自粛する。

⑧　飲食については、一定の距離を確保し対面は避け、会話は極力控えるようにすること。

⑨　試合前や試合後のミーティングは可能限り一定の距離を保って行う。

⑩　会場に入る場合はマスクを着用すること。その際、熱中症予防にも努めること。

**【当日の大会運営について】**

①　式典は行なわず、表彰のみとする。

②　役員は、毎試合終了後、応援席やIDの消毒を行うこと。

③　感染拡大予防の為、球場の出入口は１カ所とする。試合観戦を終えた保護者から球場出入口を使用し、その後、次試合の保護者を入場させること。

④　消毒などの感染予防対策を行うため、試合間のインターバルは長くする。

⑤　保護者の応援・大会関係者の参加制限を設ける。

　　（１）保護者の観戦は各チーム**５０名程度**とし、事前に観戦保護者名簿（地区専門部HPからダウンロードする）を作成する。名簿は大会当日に本部に提出し、その後人数分のIDを受け取ること。

（２）各チーム保護者会から代表１人を選出し、役員立会いの下球場入り口で観戦名簿の氏名をチェックしながらIDを観戦者に配布すること。試合終了後、IDは顧問や保護者会長などで回収し本部に返却すること。２日目以降も同様とする。ダブルヘッターの場合は、その限りではない。

（３）保護者は試合観戦を終えたら速やかに、応援スタンドから退去すること。

　　（４）参加者及び会場に入場できるのは

ア　登録選手と登録外の選手（３年生に限る）。

イ　申込用紙に記載された監督などの指導者。

ウ　校長・教頭・学校職員。

エ　３年生の保護者及び登録選手の保護者。

　　（５）アルバム業者（報道関係者も含む）も大会本部で受付を行い、IDを受け取ること。

　　（６）高校野球関係者は入場禁止とする。

⑥ 球場施設によっては、球場外からも応援、観戦できないよう外野入り口などに規制をかける場合もある。巡回を行うなどしてIDを受け取っていない応援者である場合は注意を促す。

⑦ 応援者については、観客席が密にならないように、一定の距離を保って観戦するようにチームごとで応援者に注意喚起を行うこと。なお、運営側でも入り口などに掲示を行ったり、放送による呼びかけを実施したりすること。

⑧ 大会当日の体温が37.5℃以上ある場合、または強いだるさなどの体調不良者は帰宅させる。また、途 　中で体調が悪くなった場合も速やかに帰宅させる。

⑨　大会役員や審判員は、当日の検温を行い健康観察に努めること。役員は必要最低限の人数で行う。

⑩　緊急の場合は、保護者の車を近くに停め、会場に入る等適切に対応する。

⑪　水分補給は各自で水筒やスクイズボトルを準備すること。

⑫　会場内、出入り口などに消毒液などを設置すること。

⑬　身なり点検は各学校で行い、会場では行わない。

　⑭　オーダー交換時は選手、監督同士の握手はなし、１ｍ以上の間隔をとり行う。

⑮　ロッカールームは使用せず、ベンチ内に荷物を置くようにする。

　⑯　ボールボーイ等の補助員は試合を行っているチームで補う。

（登録選手が少ないチームに関しては専門部で対応する）。

　⑰　役員はマスクを着用すること。また、大会本部席も小窓を開ける等、常に換気に配慮すること。

　⑱　大会アナウンスは実施する（イニング間などに換気を行うこと）

　⑲　競技で使用する用具（ボールなど）は試合ごとに消毒すること。また、施設内のドアノブなどよく手が触れる場所は計画的に消毒すること。

**【競技に関する対応】**

①　前試合がコールドゲームになっても試合開始を早めることはしない。

②　ボール回し、４回整備は無しとする。

　③　試合中のファールグランドでのキャッチボールや素振りは可能な限り認める。

④　円陣や密集しての声出しなどの機会を控えること。

　⑤　選手は試合前の挨拶、握手は行なわず、ベンチ前で行う。球審・塁審は、通常の位置で試合開始の合図を行う。

　⑥　競技中のマスク着用については、選手、審判員の判断とする。ベンチ内にいるときは、全員がマスクを着用することを推奨する。ただし、熱中症予防に配慮すること。

　⑦　肌が触れ合うハイタッチなどは行わず、各々コミュニケーション方法を模索すること。

　⑧　ベンチ内では一定の間隔（１ｍ以上）を保つよう努力すること

　⑨　大会前や大会期間中に参加自粛などの学校が出た場合は、中体連（対策委員会）や野球専門部で協議を行い不戦勝等の処置をとる。